

大学の国際化と芸術文化学群の教育

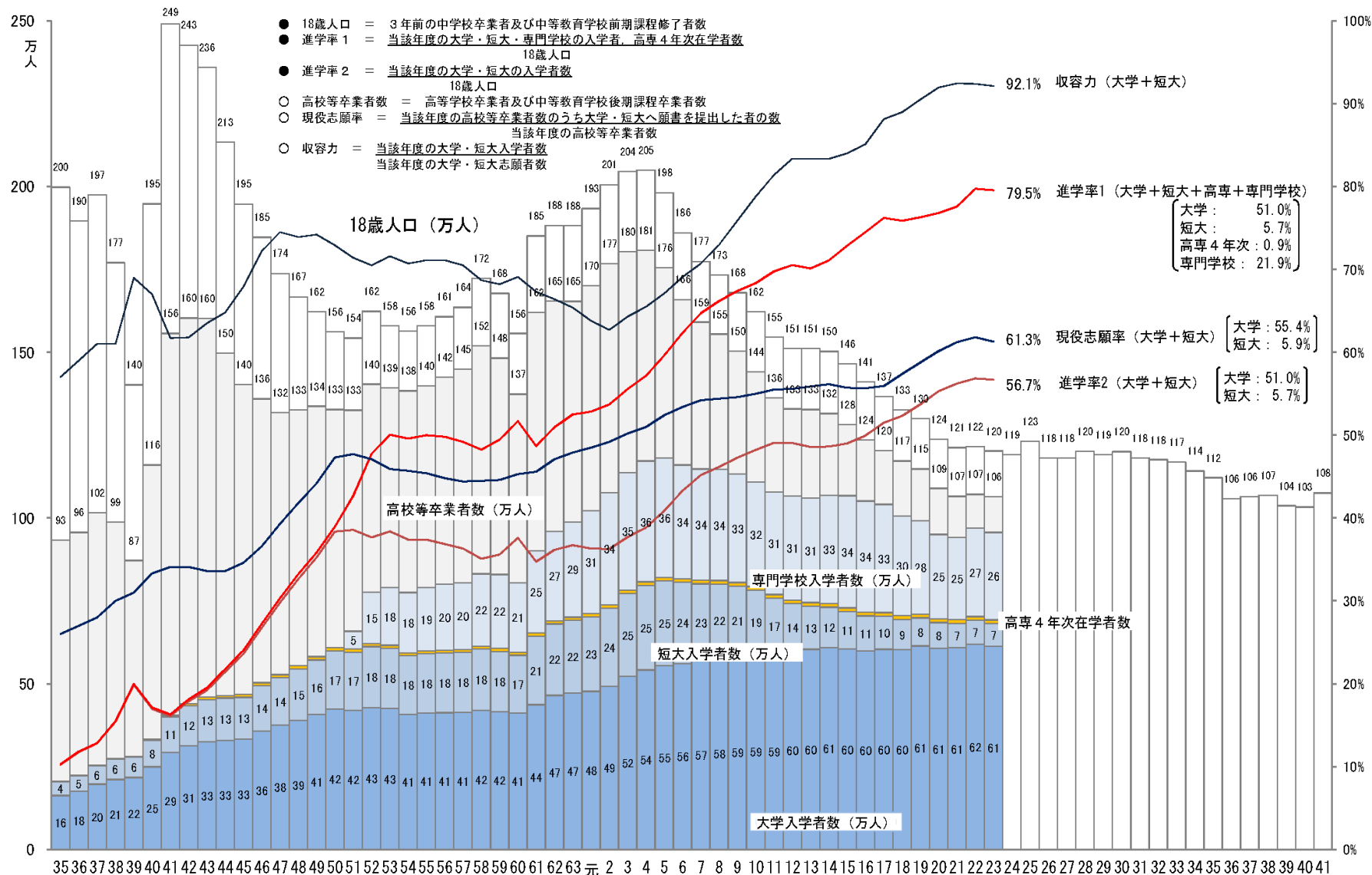
畑山 浩昭

2013.6.5 (Wed)

大学を取り巻く環境と現状

テーマ	要約
教育行政	・強大なグローバルプロジェクトを支援 ・グローバルスタンダード(UNESCOやOECDが提示する教育研究)との整合性
経済	・長期の低迷と収入の停滞や減少 ・高等教育への投資減 ・経済的低迷に起因する代替校への進路、学部学科選択への影響
社会	・18才人口の減少 ・大学進学率の停滞 ・成果や出口、付加価値が不透明な大学への進学や投資の躊躇 ・学納金と対価
技術	・ネットワーク、オンラインコンテンツの充実 ・機能の向上とコスト減 ・教育研究技術の革命と教室内授業との競合
桜美林に対する社会からの評価	・偏差値・難易度で45～50(ボーダー偏差値) ・志願者実数5000人程度、東京神奈川中心。 ・知名度あり、特色なし ・交通アクセスに問題あり ・受験市場に受け入れられていない

○18歳人口と進学率等の推移



(出典) 文部科学省「学校基本調査」、平成36年～41年度については国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」をもとに作成

18才人口の進学状況と大学の規模

平成23年度の18才人口	比率	概数
18才人口	100%	120万人
高等学校卒業者数		106万人
進学率(大学・短大)	56. 7%	67万人
進学率(+高専、専門学校)	79. 5%	95万4千人
高等教育機関に在籍しない		24万6千人

桜美林の規模

学生数 約8700名（充足率 1.19）

全国私立大学で51番目の規模

大規模校から累計すると、本学まで含め、89万8千人（全体の45%）

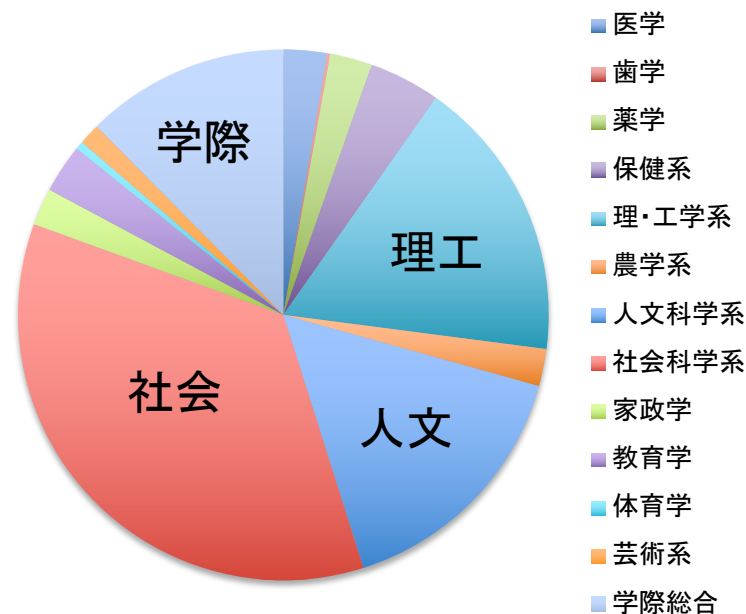
全国の私立大学数は578校、在籍者数は、約198万人。

参考 上位から、日大、早稲田、立命、近畿、明治、慶応、東海、関西、法政、同志社、東洋、中央などの順位

2012年度 私立大学志願者動向 （出典：日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター）

区分	志願者数
医学	84,899
歯学	5,626
薬学	82,573
保健系	138,556
理・工学系	553,755
農学系	72,512
人文科学系	505,198
社会科学系	1,133,175
家政学	72,511
教育学	95,023
体育学	15,688
芸術系	41,424
学際総合	397,385
合 計	3,198,325

- ・保健系での人気は、看護、保健医療、医療技術。
- ・理工系での人気は、工学、理工学、理学など。
- ・人文科学系での人気は、文学、外国語、心理、国際文化、文芸。
- ・社会科学での人気は、経済、法学、経営、商、総合政策、情報。
- ・家政系では、家政と生活科学。
- ・教育系では、教育と発達教育。
- ・芸術系では、芸術と造形。
- ・学際総合は、人間科学、健康科学、国際、国際教養、学芸、国際関係、総合情報、情報理工などの総合科学系。



収容定員数、学生数による競合

学生数順	大 学 名	収容定員	学生数	充足率	学生数累計	%
1	日本大学	57,960	68,675	1.18	68,675	0.03
2	早稲田大学	35,360	44,756	1.26	113,431	0.05
5	明治大学	26,080	29,861	1.14	206,757	0.10
6	慶應義塾大学	26,189	28,844	1.10	235,601	0.11
7	東海大学	28,292	28,598	1.01	264,199	0.13
9	法政大学	24,020	27,436	1.14	319,706	0.16
11	東洋大学	21,150	25,989	1.22	371,871	0.18
12	中央大学	21,828	25,329	1.16	397,200	0.20
13	帝京大学	21,812	24,132	1.10	421,332	0.21
16	立教大学	16,520	19,469	1.17	483,520	0.24
17	神奈川大学	16,920	18,114	1.07	501,634	0.25
18	青山学院大学	14,924	18,040	1.20	519,674	0.26
20	専修大学	14,600	17,684	1.21	555,289	0.28
21	東京理科大学	14,100	16,671	1.18	571,960	0.28
22	駒澤大学	13,584	15,676	1.15	587,636	0.29
24	国士舘大学	11,310	13,508	1.19	616,061	0.31

学生数順	大 学 名	収容定員	学生数	充足率	学生数累計	%
27	大東文化大学	10,360	12,600	1.21	654,603	0.33
28	明治学院大学	10,520	12,030	1.14	666,633	0.33
29	東京農業大学	10,058	12,000	1.19	678,633	0.34
32	関東学院大学	10,252	11,294	1.10	713,628	0.36
34	上智大学	9,192	10,886	1.18	735,530	0.37
36	立正大学	9,420	10,474	1.11	756,785	0.38
37	國學院大學	8,260	10,382	1.25	767,167	0.38
40	拓殖大学	8,400	9,890	1.17	797,496	0.40
42	帝京平成大学	9,114	9,597	1.05	816,700	0.41
43	東京電機大学	7,830	9,565	1.22	826,265	0.41
47	千葉工業大学	7,980	9,278	1.16	863,647	0.43
48	獨協大学	7,020	8,712	1.24	872,359	0.44
49	文教大学	7,430	8,604	1.15	880,963	0.44
51	桜美林大学	7,200	8,596	1.19	898,157	0.45

大学のミッションとしての 国際展開力

建学の精神・大学のミッション



本学園は
キリスト教主義の教育によって、
国際的人物 (International Character)
を養成するをもって目的とする。

語学だけでは足りない。
己を愛する如く隣人をも愛せよ、
と教える**キリスト教**を、みっちり教える
べきである。

誰が、周囲の国民に、
本国民程に愛好すべき国民は
ないと思わせ得るであろうか。それは、
語学の達人である。よって本学は、
我が国の周囲の国々の言語を教えんと
欲するのである。

かくて**キリスト教主義と語学、**
この二つをよく体得した人材を
多数教育せんとするのが、
本学の建学の趣旨である。



学園の中長期ビジョン
に描かれている国際性

25%の
インターナショナル
スチューデント

国際的に
認知される
教育研究

**キリスト教主義
と語学による
国際的人材**

我が国トップの
モビリティ

半数以上が
大学院への
進学希望

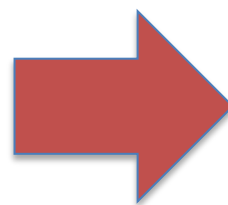
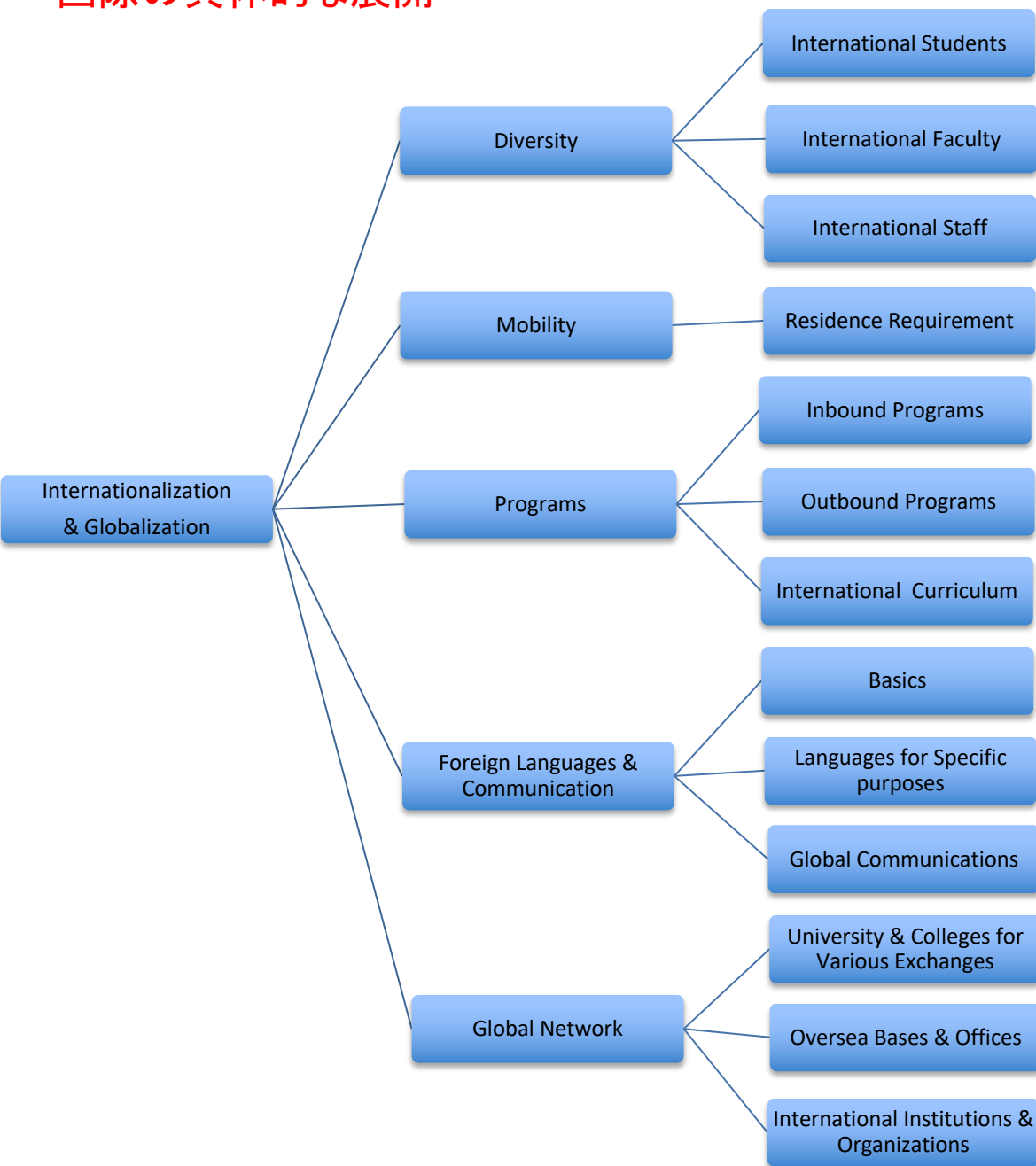
国際的な
キャリア

国際戦略のフレームワーク(基本的なコンセプト)

FRAMEWORKS	
Diversity	学生、教員、職員の多様性、多文化、多国籍、及び、共生
Mobility	流動性、移動、異動、様々な社会文化の体験
Global Studies	国際的な学習や研究、グローバルな問題や課題の取り組み
Global Bases	海外拠点を中心にした交流
Foreign Languages & Communication	外国語の修得、異文化理解、グローバル・コミュニケーションに必要な知識や技術
Global Network & Alliance	国を超えたネットワーク、相互利益や共通の目的のための提携、連携事業



国際の具体的な展開



- ・予算(資産)の配分
- ・人の配置
- ・施設設備
- ・集中と選択の決定
- ・改善や改廃
- ・特色や特徴の分析
- ・マーケットの変動
- ・競合との位置や評価
- ・フレームワークと戦略の検討
- ・コストと収益率

学生、教職員の数

Faculty and Staff 2012 School Year

<u>Faculty</u>	University	Full Time	293
		Part Time	578
		Total	871
	Senior High School	Full Time	50
		Part Time	42
		Total	92
	Junior High School	Full Time	28
		Part Time	10
		Total	38
	Kindergarten	Full Time	9
		Part Time	7
		Total	16
	Total Faculty	Full Time	380
		Part Time	637
		Total	1,017
<u>Staff</u>		Full Time	157
		Part Time	143
		Total	300
<u>Total Faculty and Staff</u>		Full Time	537
		Part Time	780
		Total	1,317

Numbers of Students (as of May 1, 2012)

Graduate Division Total	368
Undergraduate Division Total	8,595
College of Arts and Sciences	4,565
College of Business Management	2,005
College of Health and Welfare	948
College of Performing and Visual Arts	1,064
Other (Old Curriculum)	13
Extension Schools Total	76
Extension for International Students (Institute for Japanese Language and Culture)	54
Special Course in Chinese (Confucius Institute at J.F. Oberlin University)	22
University Total	9,039
Senior High School	1,011
Junior High School	502
Kindergarten	145
Grand Total	10,697

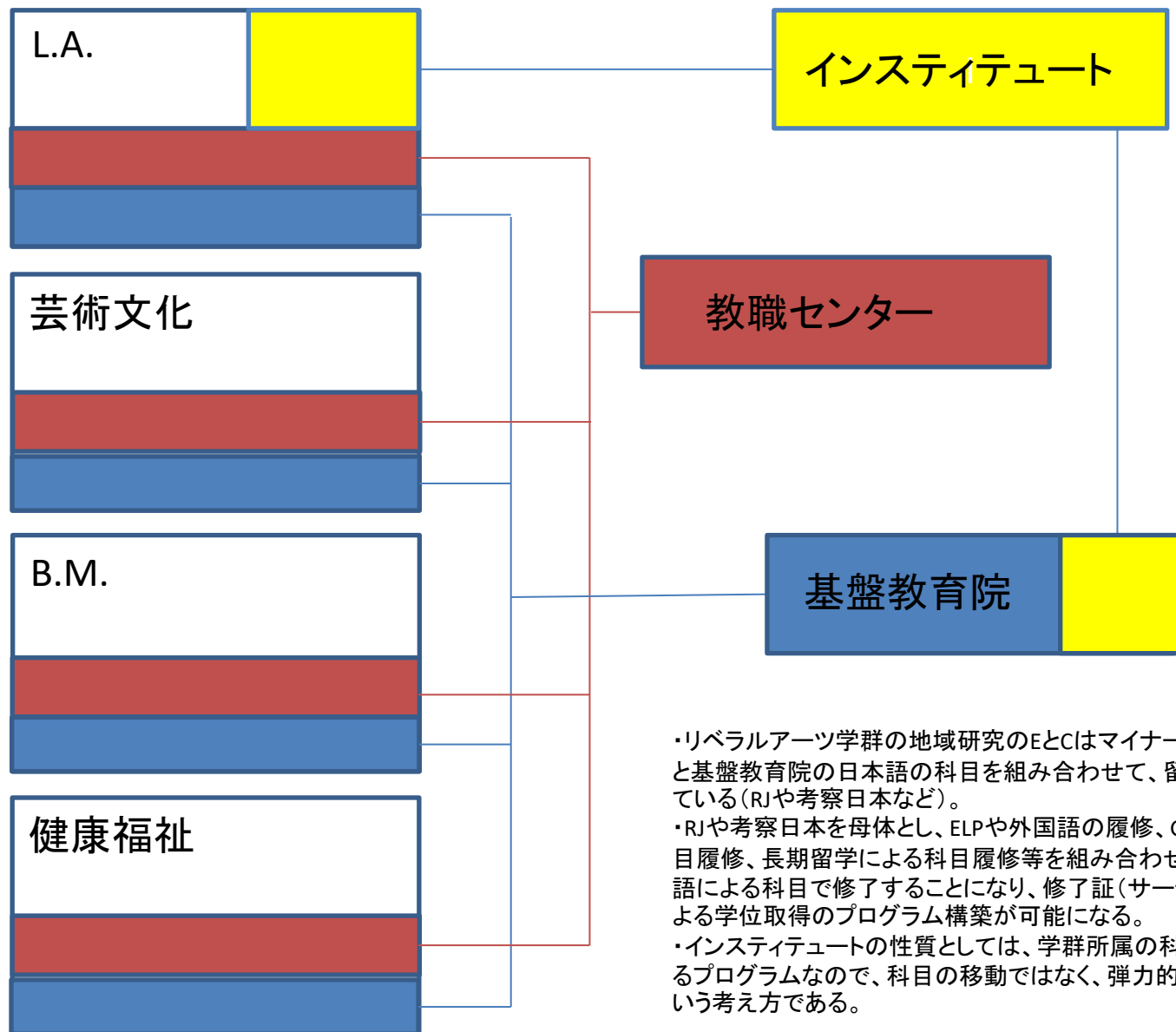
留学生の数

International Students Enrolled in University 2012 School Year

China	357	Korea	71	USA	37	Canada	1
Taiwan	9	Mongolia	13	Thailand	2	Myanmar	7
Vietnam	4	Malaysia	2	Australia	1	U.K.	2
Indonesia	1	Iceland	2	Netherlands	3	Germany	1
Sweden	1	Norway	1	Turkey	1	New Zealand	1
Egypt	1						
Total	518						

学群制

学群と共通教育組織の設置方法



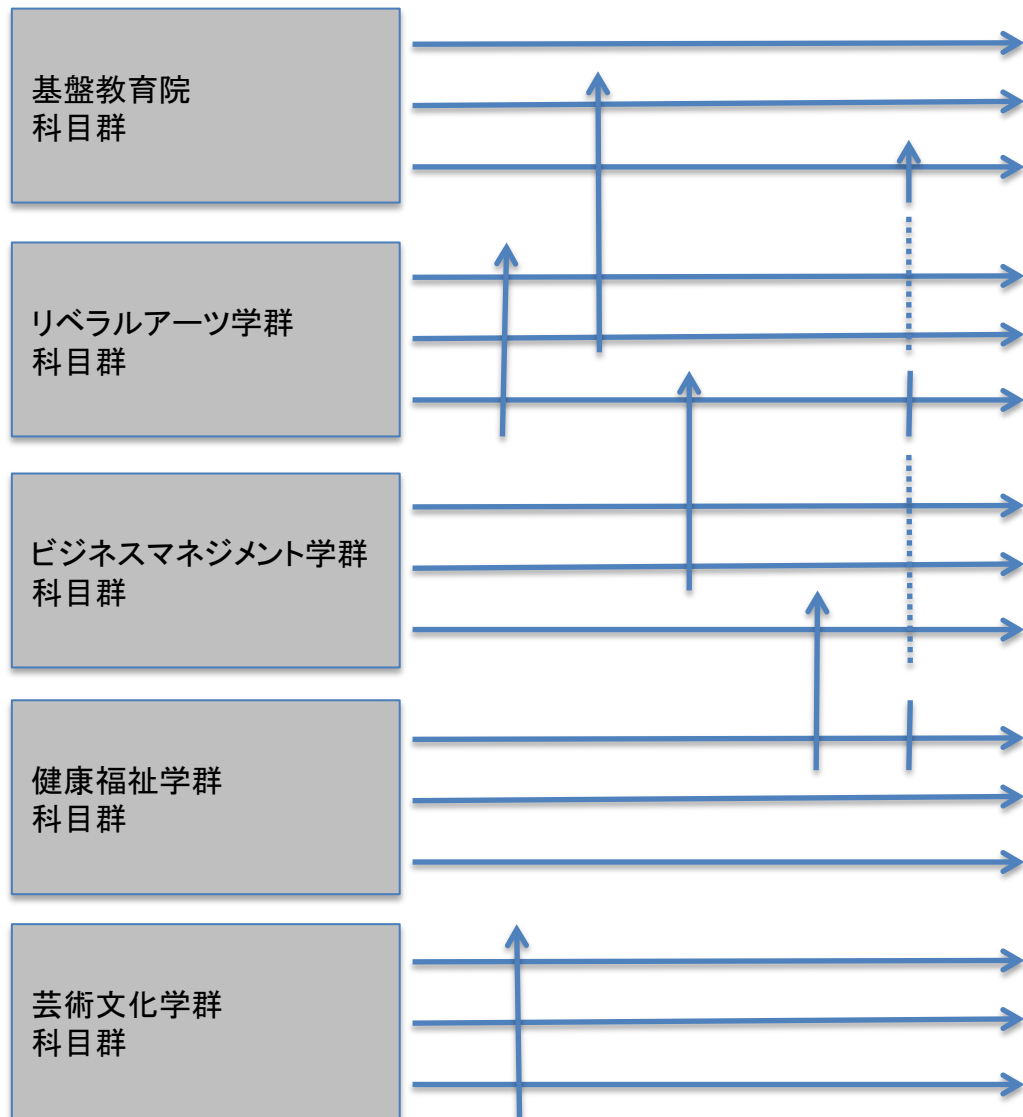
・リベラルアーツ学群の地域研究のEとCはマイナープログラムである。これらの科目と基盤教育院の日本語の科目を組み合わせ、留学生向けのプログラムを構築している(RJや考察日本など)。

・RJや考察日本を母体とし、ELPや外国語の履修、GOプログラムによる提携校の科目履修、長期留学による科目履修等を組み合わせると、卒業要件の大部分を外国語による科目で修了することになり、修了証(サーティフィケート)や英語・中国語による学位取得のプログラム構築が可能になる。

・インスティテュートの性質としては、学群所属の科目を横断的に利用して組み立てるプログラムなので、科目の移動ではなく、弾力的な運用によるプログラムの運営という考え方である。

学群制における学び方：「プログラム」を組み合わせた自分づくり

プログラム



- ・個別のプログラムは、科目群を利用して作られている。
- ・カレッジの中には、専門的、または横断的・教養的なプログラムが組まれている。
- ・カレッジを超えて横断的に組まれるプログラムもある。

プログラム

個々の学生の興味や
関心、得意・不得意、
専攻や副専攻、将来の
キャリア等に合わせ、

**プログラムを組み合わせ、
実力をつける**

という方式。

プログラムを組み合わせた学習のサンプル

領域	プログラム	質や量
コミュニケーション	口語表現	・社会人としての日本語運用能力 ・プレゼンテーション ・日本語に関する知識
	文章表現	・各種文書作成力 ・効果的な文章構成力 ・日本語に関する知識
コンピューティング	コンピューターリテラシー	・コンピュータ、ネットワークに関する知識 ・基本ソフトの基本運用力
語学	ELP	・英語の運用能力 ・英検準1級、TOEFL500点 ・ビジネス英語基礎
	中国語(中級)	・中級中国語 ・中国語による簡単な会話、基礎的読解力
社会文化	リコネッサンス・ジャパン	・日本の歴史、経済、社会、文化に関する基本的な知識 ・英語による日本の紹介 ・多国籍多文化間のコミュニケーション力
	アメリカ地域研究	・アメリカの経済、政治、社会、文化に関する総合的な理解
経営	経営戦略・管理	・マネジメントや組織運営に関する基礎知識 ・経営戦略のフレームワークとストラテジーの基礎スキル
	国際金融	・会計に関する基礎技能 ・ファイナンスに関する幅広い教養

大学全体のブランディング

選ぶ側、選ばれる側。マッチングのジレンマ

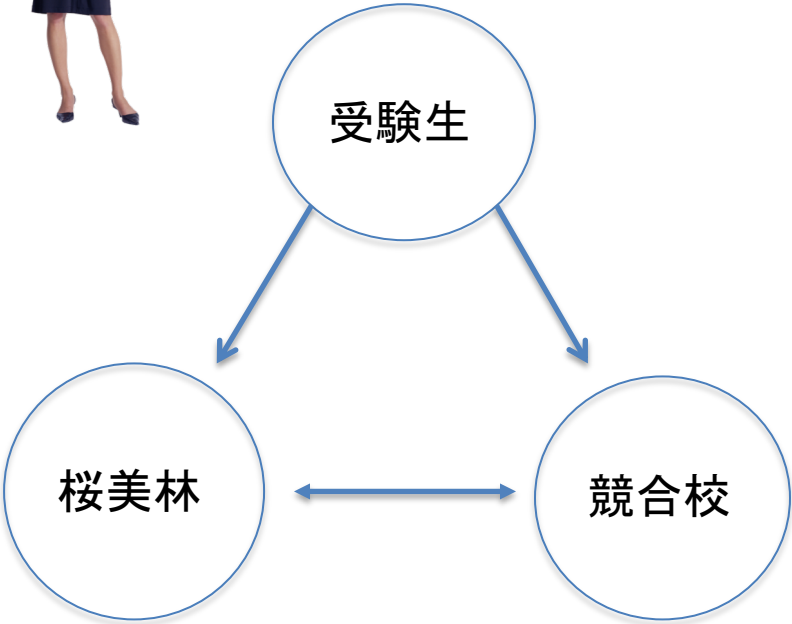
受験生と大学の思い

行きたい大学
行たくない大学
行ける大学
行けない大学



大学側

来てほしい学生
来てほしくない学生
来る学生
来ない学生



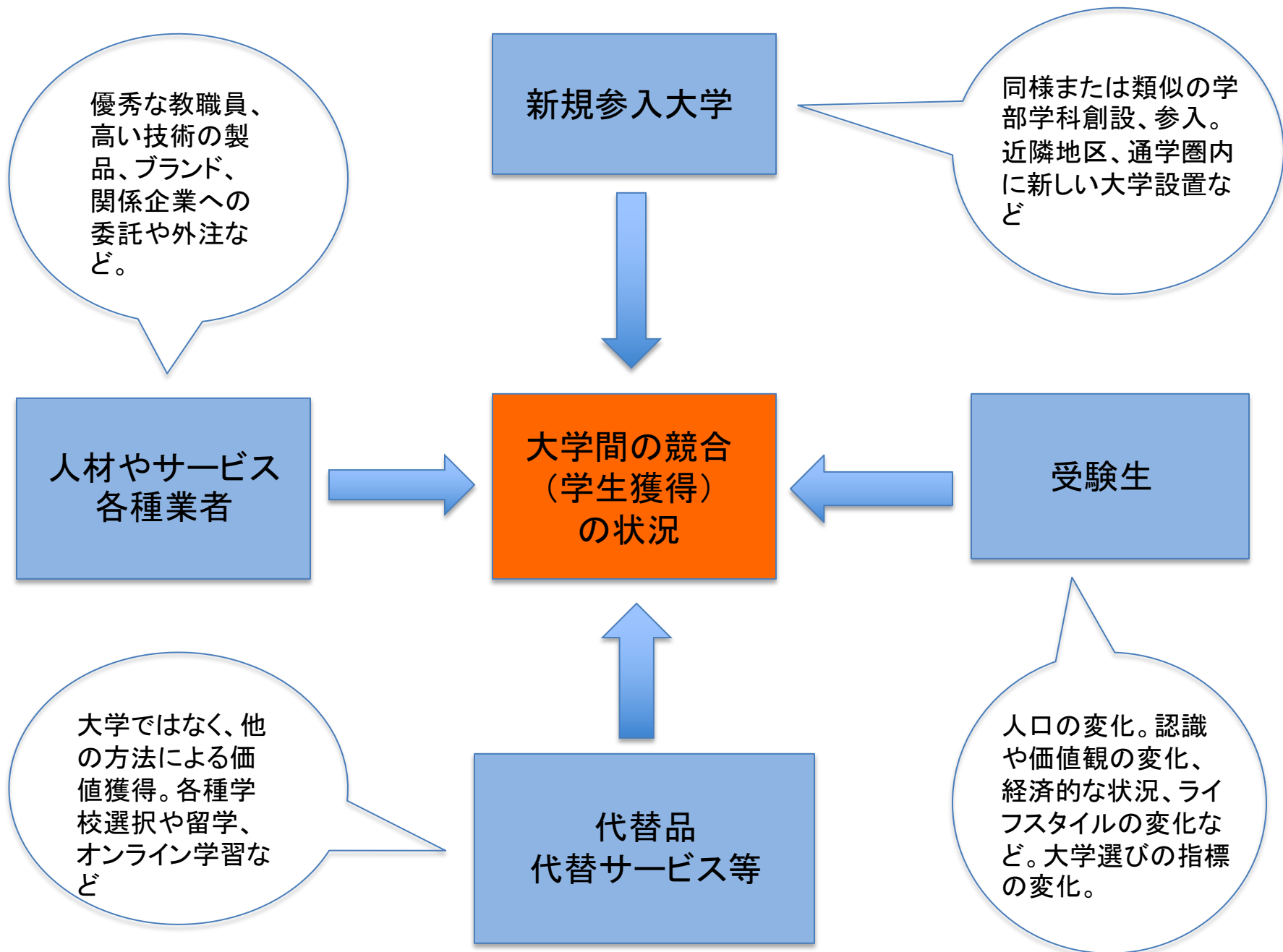
大学選びの指標

偏差値	教育内容	機会
知名度	教授陣	規模
ブランド	就職・進学	男女比
立地	両親の勧め	留学生比
学費	施設設備	寮

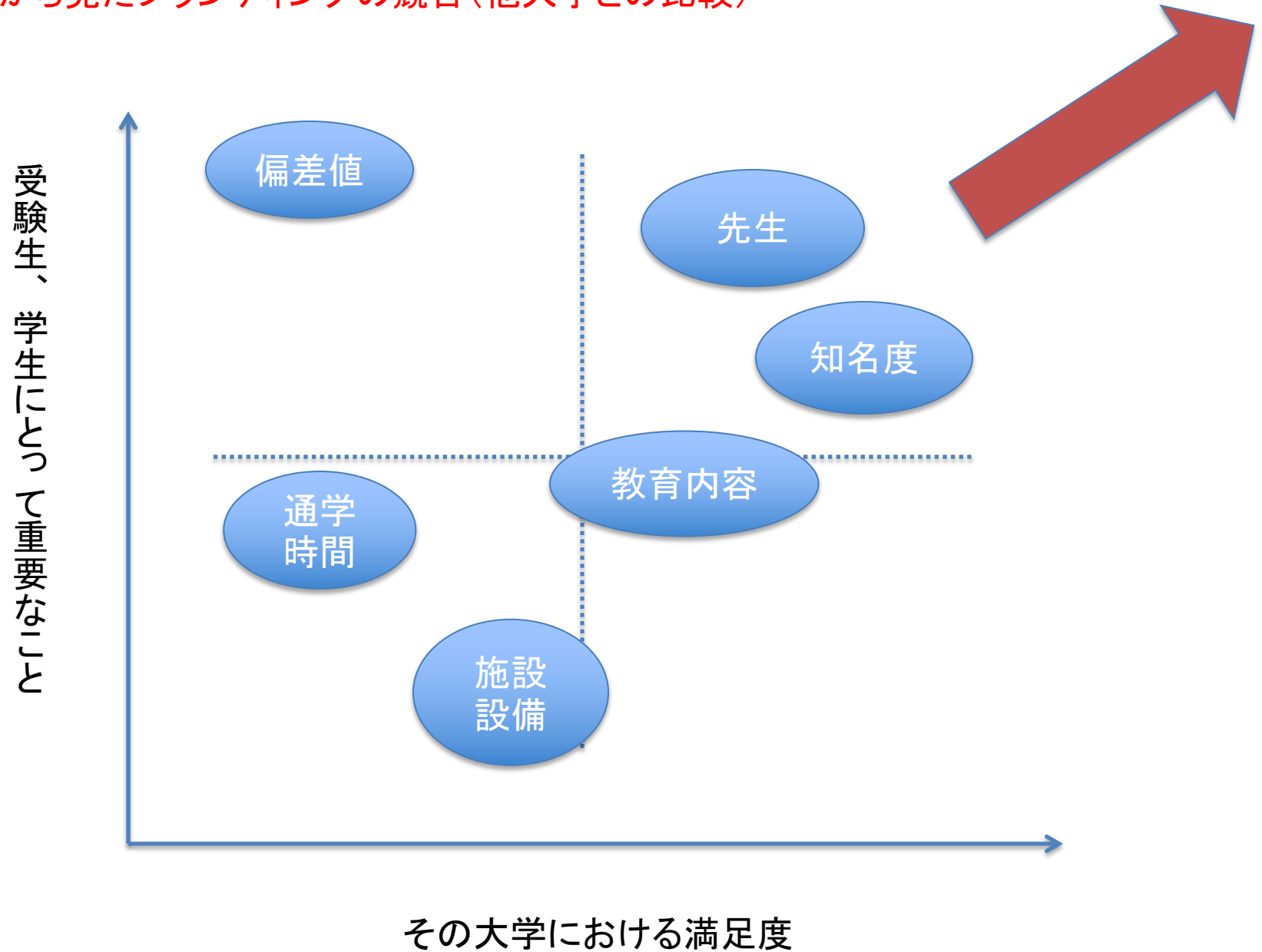
各大学のポジショニング

価値	どのような価値を？
対象	どのような学生に対して？
方法	どのような強みで付加創造するか？

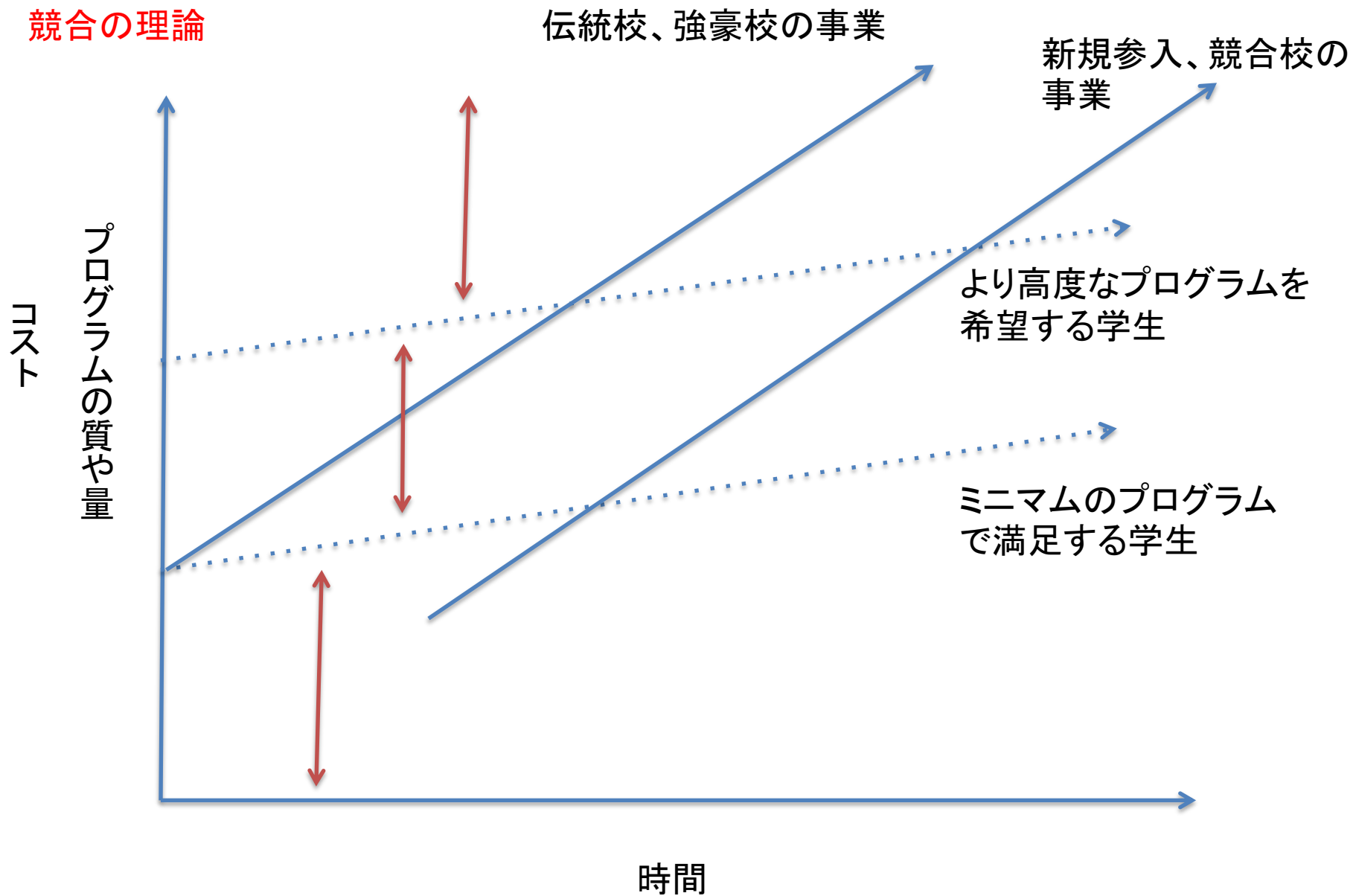
大学間競争のモデル



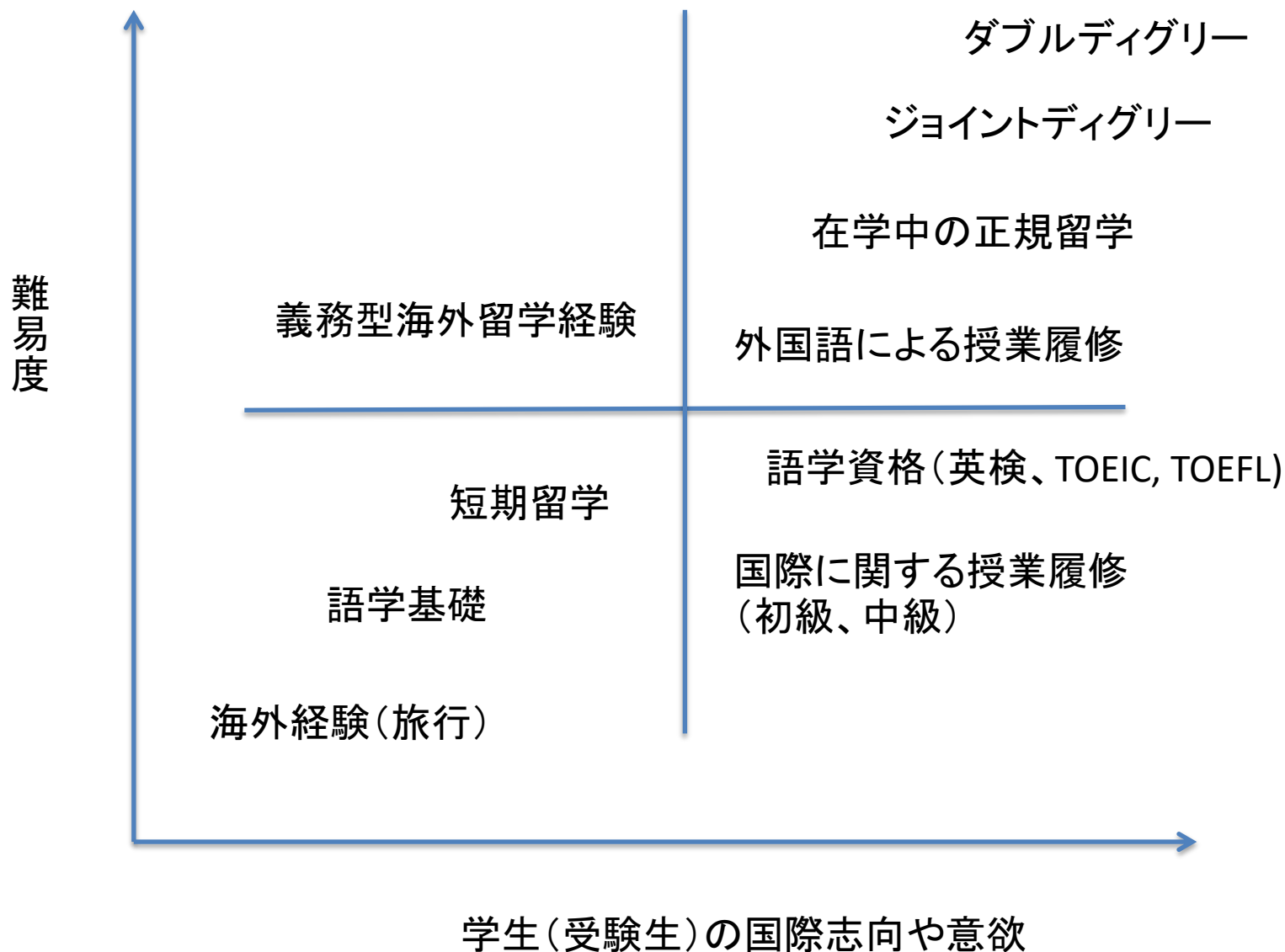
受験生から見たブランディングの競合（他大学との比較）



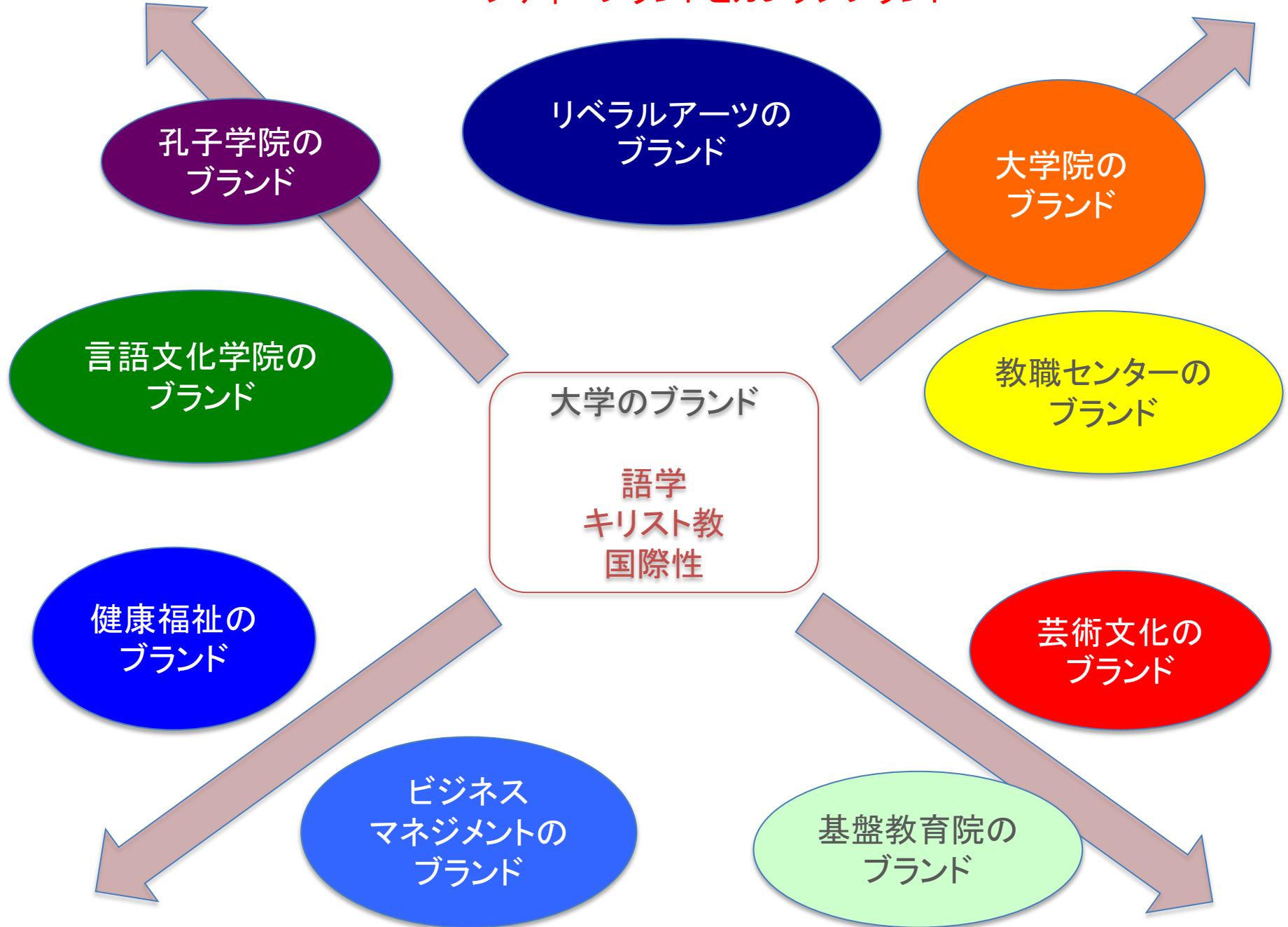
競合の理論



志向と難易度：国際志向の場合の例



ユニバーシティーブランドとカレッジブランド



芸術文化学群の教育

大学・学群 志願者推移

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
全学群	10,639	8,628	10,380	9,297	9,190	9,369	8,127	7,982	7,685
芸文	1,248	943	821	1,036	1,077	864	662	594	565

補足

* 2005年に総合文化学群設立

* 2006年に健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群設立

* 2007年にリベラルアーツ学群設立

社会の動き

- ・国全体の長期にわたる経済的な低迷と、家庭の収入の停滞や減少が、高等教育への投資を控え、大学に進学する場合においても、より実学的な専攻に人気が集まっている。理工や医療、教育系が志願者を集めている。
- ・18才人口の減少や大学進学率の停滞と、大学数の増加に伴う収容定員の増加のアンバランスにより、特定の大学や特定の分野で志願者を減らしている。
- ・学納金とその対価について、世間の目が厳しくなっている。

私立大学全体の志願者動向

医歯薬学系	173,098	人文科学系	505,198
保健系	138,556	社会科学系	1,133,175
理工系	553,755	家政系	72,511
農学系	72,512	教育系	95,023
体育系	15,688	芸術系	<u>41,424</u>
学際総合系	397,385		

合計志願者数 3,198,325

*2012年度、日本私立学校振興・共催事業団私学経営情報センターのデータを参照

芸術系については、全国的に志願者数が少ないことも近年の特徴である。

大学の収容定員とブランドから考える競合状況

- ・私立大学の規模でみると、桜美林大学の在籍学生数は、全国で51番目となる。規模順に並べ替えた場合、本学までで898,157名という累計数になり、全体の45%を占めることになる。
- ・一方、大学ランキング等にみる本学の偏差値や難易度は中堅私立大学の下位層に位置付けられている。上位、中位層には大規模校がおり、同等のグループにも大規模校がいるので、学生獲得の状況は厳しくなっている。
- ・ブランド力が強い大規模校が芸術系にも参入している一方で、芸術系そのものを志願する学生の母体が小さいので、この分野における競合は、強いブランドがあるか、特徴のあるプログラムを有しなければ、かなり厳しいということである。

大学選びの指標

知名度	偏差値	ブランド	立地
学費	教育内容	教授陣	就職状況
進学状況	両親の意向	先生の勧め	施設設備
機会	規模	男女比	留学生比
寮	学生サービス	スクールカラー	

* 本学における各指標の評価を分析し、「どのような価値を、どのような学生に対して、どのような強みで付加創造するか」が、大学のポジショニングのポイントとなる。これを芸術文化学群として考える。

仮説と方向性

芸術文化学群の学生募集力の向上に向けて、次のような仮説が立てられる。

- ・芸術であっても、より実学的でプロフェッショナルな出口が見えれば、募集力は向上する。
- ・学納金と得られる対価がきちんと明確に示すことができれば、学納金の総額はそれほど問題にならない。
- ・芸術系そのものの人気に陰るがある時代に、芸術系のプログラムを展開するためには、既存の芸術系の勉学に収まるのではなく、新しい芸術教育のプロポーザルが新たな芸術の道を開くことになり、その結果、志願者は増える。
- ・大規模校の芸術教育に対抗できるのは、少人数教育によるユニークで先進的なプログラムであると考えられる。
- ・大学選びの指標の中で、本学において評価が高い指標を中心に、募集活動に取り組めば、募集力は向上する → 語学、国際、キリスト教精神との融合。

国際戦略に関するまとめ

大学を取り巻く環境、つまり、経済的、政治的(教育行政的)、社会文化的、技術的变化を見極め、本学に対する様々なステークホルダーからの評価や期待を把握し、競合する数多くの機関の中での位置を確認しながら事業計画をたて、持続的な成長を実現できるような戦略を遂行し、安定した信頼のおける大学として認知される。

建学の精神、及び、本学の教育研究のミッションにある「国際的人材の育成」を主たる事業とし、その実現のため、「国際、及び、グローバル」をキーワードとする教育研究事業を進めていくにあたり、本学の強みや弱み、世の中の動きにおける機会や脅威を把握分析しながら、最大の価値創造を生み出すことに力を注ぐ。

それぞれの教育組織における教育研究事業に、国際的、グローバルな価値を付加することにより、学群教育の価値を高める。

既存のプログラムに満足していない学生や、国際・グローバルに興味を抱いてない学生を、新規の対象とするプログラムを生み出し、学生募集の増加を図る。

主なコンセプトは、「Diversity」「Mobility」「Foreign Languages and Communication」「Global Network and Alliance」「Overseas Bases」「Global Programs and Curriculum」「International Career」「Undergraduate-Graduate Consistent Programs」である。

競合と市場の状況から言えること

- ・競合の状況(競合校と分け合っている市場)を冷静に見極めること。
- ・市場規模(領域別志願者規模)と、展開する教育事業の規模の整合性を図ること。
- ・競合の中での本学のシェアやブランドを把握すること。
- ・新規開拓事業(新領域、新規学生集団獲得)は、既存のプロセスから分けて考えること(新規プログラムは必ずしも、市場的には「新」ではなく、既存の市場に参入することが多い。これはつまり、既存市場や既存競合への新規参入であり、新たな市場を切り開くこととは異なる)。
- ・各事業のコストや収益率、ブランド等を分析し、継続的な展開についての戦略を持つこと(創設期、成長期、成熟期、衰退期のプロセスは避けられない)。
- ・コーポレートブランドとプロダクトブランドはリンクしており、プロダクトブランドの成功によって、コーポレートブランドは維持できるので、全学的な付加価値と教育事業ごとの付加価値をリンクさせること。